

# 水痘ワクチンを接種される方へ ※予防接種の前に必ずお読みください。

水痘ワクチン予診票に御記入のうえ、医師の診察をうけてください。もし、お子様にふだんと変わった様子があった場合には、必ず医師に御相談ください。

## 1 病気の説明（水痘） ※札幌市がお配りしている「予防接種のしおり」もあわせてご覧ください。

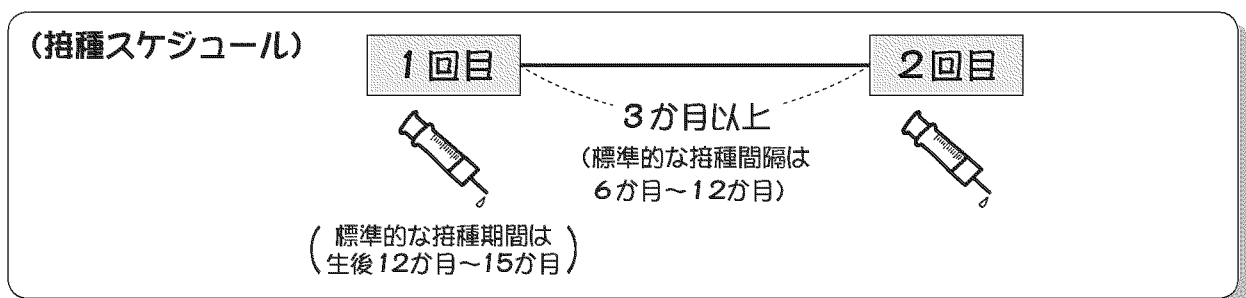
水痘は「みずぼうそう」ともいわれ、水痘・帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫感染や空気感染によって感染します。感染力の強い病気であり、5歳までに多くの乳幼児が発症するといわれています。

この病気の主な症状は、かゆみを伴う全身性の発疹と発熱です。発疹は、赤く盛り上がった斑点状のものから水疱になり、かさぶたとなって治ります。一般には軽症ですが、全国で年間4,000人程度が入院し、20人程度が死亡していると推定されています。

## 2 接種について

**接種対象年齢** 1歳・2歳（生後12か月から36か月に至るまで）

**接種回数と接種間隔** 3か月以上の間隔をおいて2回接種（標準的な接種間隔：6か月～12か月）  
※1回目の標準的な接種期間は、生後12か月～15か月  
※これまでに水痘にかかったことがある場合、または任意接種として2回接種している場合は対象外です。  
※対象年齢で1回接種済みの方は、残りの1回を定期予防接種として、接種可能です。  
※1回目を対象年齢で接種した場合であっても、2回目を接種する際に3歳以上になっている場合は、2回目の接種は定期接種になりません。



### 3歳・4歳のお子さんのワクチン接種について（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）

3歳・4歳（生後36か月から60か月に至るまで）のお子様は、平成26年度のみ1回無料で接種できます。

ただし、すでに1回以上接種したことがある場合、水痘にかかったことがある場合は対象外です。

## 3 副反応について

ときに軽微な発熱や発疹がみられますが、通常は一時的なもので、数日で消失します。まれに接種部位の赤み、腫れ、しこりがみられます。重い副反応として、非常にまれですが、アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病があります。

## 4 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけ医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

## 5 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全の者がいる方
- ⑤ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

## 6 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

## 7 健康被害が発生した場合

ワクチンの接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、申請することにより補償を受けられる場合があります。詳しくは接種した医療機関にお問い合わせください。